

第1回小中一貫教育に関する検討会 議 事 録

開催日時

平成29年7月19日（水） ・ 午後2時54分～午後4時26分

開催場所

教育委員会室

出席者

会長、副会長、委員10名 計12名（遅参1名、中途退席1名）

検討会事務局員

新しい学校づくり課長、学校配置調整担当課長、教育支援センター所長、ほか3名
計6名

・午後2時54分 開会

事務局

それでは、定刻前でございますけれども、皆様お揃いということでございますので、第1回小中一貫教育に関する検討会を開催させていただきたいと思っております。

本日は、ご多忙の中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。わたくしが、事務局を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

初めに、お手元の資料のご確認をお願いしたいと思います。

「平成29年度第1回小中一貫教育に関する検討会次第」という、ステイプラーどめのものが一つ、お手元にあるかと思っております。

一番上が「次第」になってございまして、2枚目から、1ページというふうにページ番号が振ってございます。26ページまでございます。ご確認をお願いできればと思います。

乱丁、落丁等ございましたら、お申し出いただければというふうに思います。よろしいでしょうか。

あと、A4、1枚で、図解表示をしたようなものがお手元でございます。

それと板橋区内の小中学校通学区域の地図、それと、水色のファイルをご用意させていただいております。

水色のファイルは、今後、複数回、会議を進めさせていただきますけれども、その都度の資料を、そちらにつづり込みをお願いできればというふうに考えております。

では、議事次第に従いまして会議を進めさせていただきます。

初めに、委員のご紹介を申し上げたいというふうに存じます。

(事務局より会長以下委員10名を紹介。ほかに欠席委員1名と遅参予定の委員1名紹介あり。併せて事務局員を紹介し、続いて検討会設置要綱により会長及び副会長を選出した。)

事務局

ここで、会長から一言、ご挨拶を頂戴できればと思います。

会長

ということで、図らずもというふうな、その立場で務めさせていただきたいというふうに思いますが、もとよりこの会は、板橋で生まれ、育ち、生きる、そういう子どもたち、それから青年のための将来を見据えた会議であるというふうに私は認識しております。先に生きている人間が次の世代に向けて知恵を絞るといふ、そのための場であるのではないかとこのように思っております。

そういう意味でいうと、及ばずながら、非力ではありますが、皆さんのお力をかり、知恵を搾り出しながら、申し上げたようなアイデアを創出するというふうに進めていきたいというふうに思っておりますけれども、そういう意味でいうと、我々のチームとしての力、それぞれ皆さんお力をかしていただければと、そういうふうにお願ひできればということでもありますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局

ありがとうございます。
続きまして、副会長からも、一言、ご挨拶をお願いいたします。

副会長

皆さん、こういう次第で副会長になれということでございますので、お受けいたしました。どうぞよろしくをお願いいたします。

会長とは、色んなところで色々ご指導いただいたりしておりますけれども、今回はご一緒にとということです、会長を助けて、できるだけ板橋のためになるように力を尽くしたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。
では、検討の方に進んでまいりたいというふうに住じます。
こちらからは、（検討会事務局の）担当の方で議事を進行させていただきたいと存じます。
それでは、お願いいたします。

事務局

それでは、皆様、改めまして、こんにちは。
誠ににお忙しい中、また非常に暑い中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

早速ですが、議事を進めさせていただきたいと思います。

まず、今お開きの設置要綱、2ページでございます。

冒頭に申し訳ございません。

今回は初回ということでございまして、どうしても運営に関する確認事項であるとか、昨年度の検討の経過、あるいは要望というか、その辺のご説明というのがございますので、なるべく簡潔にさせていただきまして、皆さんからのご意見をいただく時間を多くとりたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

失礼いたしました。

2ページ、要綱でございますが、先ほどお話がございましたとおり、この要綱に基づきまして、先ほど会長、副会長を、委員の皆様におかれまして委嘱させていただいたところでございます。

また、第4条をご覧くださいますと、こちらは作業部会というものがございます。今後の検討に際しましては、具体的な、詳細な内容につきましては、こちらの作業部会で色々詰めさせていただきまして、その結果をもちまして、次回以降のこちらの検討会にご報告いたしまして、さらなる検討を深めていただければと考えております。

続きまして、運営方法でございます。資料の4ページをご覧くださいと思います。

検討会の開催回数につきましては、今回、初回を含めまして平成29年度は6回開催を予定しております。

また、2番の開催日時につきましては、事前に、事務局で調整の上、設定さ

させていただきます。ご連絡等でお手間をおかけしますが、よろしく願いいたします。

続きまして、3番の検討会の公開等についてでございます。

こちらの検討会につきましては、原則として公開を考えております。

ここで、本日、この運営案は皆様にお送りしている前でございますので、今回につきましては公開とはしておりません。今後につきましては公開を考えてございます。

公開に際しましては、お手元の資料でその他のところにありますとおり、傍聴に関する規則というものを準用して、ご希望される方がいらっしゃれば傍聴も可能というふうに考えており、議事録につきましては、区のホームページについても掲載していく予定でございます。

というのも、なかなかこの小中一貫教育という考え方は分かりづらい部分もありますし、広く区民の皆様にもご案内を丁寧に差し上げたいという思いがございますので、こういった形を考えてございます。

一方また、ここにはないことで運営に関して定めるべきことというのが今後生じた場合には、また今後、この検討会でお諮りして決定していただければと考えてございます。

こちらの運営につきまして、このような案を考えてございますが、ご意見等おありでしょうか。いかがでしょうか。

この案でよろしいでしょうか。

(異議なし)

事務局

ありがとうございます。

では、今後はこのような形で進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

今回、この件につきましては決定させていただきましたので、「(案)」というところが外れまして、下の7月、空欄になっていますが、本日の日付、19日決定ということにさせていただきます。

この検討に当たりまして、前段階として、先ほどお話しにも出ましたが、昨年度、教育委員会の職員による庁内の検討会を設けまして、報告書というものを作成いたしました。

事前に資料は送付させていただいたんですが、また、今回も5ページ以降に資料はおつけしているんですが、非常に分量が多いものですので、説明につきましては、個別には省略させていただきます。

一方で、今後、検討に当たりまして、一つのキーワードとなります、板橋区が進めます「学びのエリア」というものが、先ほど(別途開催の委員委嘱状交付式にて)教育長からもお話がありました。

そちらにつきまして、今の板橋の強み、この学びのエリアによる小中連携教育、これを発展させて、小中一貫教育というものの推進を目標としているところでご

ございますので、この学びのエリアにつきまして、（検討会事務局の別の）担当からお時間をいただきましてご説明いたします。

事務局

よろしく願いいたします。

資料が、お配りしておりますものの18ページをご覧ください。

こちらで、板橋区における保幼小中連携教育について、簡単にご説明させていただきます。

先ほど教育長からお話があったところと一部重複する箇所もございますが、よろしく願いいたします。

板橋区では、平成19年度以来、先ほどお話しした小1プロブレム、中1ギャップと呼ばれる問題の解決や、一人ひとりの児童・生徒の基礎学力の向上などを図るということで、保幼小中連携教育を推進しております。

「保」は保育園、「幼」は幼稚園、「小」は小学校、「中」は中学校ということで、保幼小中で連携して教育を行うということでございます。

平成19年度から開始しているんですけれども、最初、19～21年度までの3年間につきましては、板橋地区と高島平地区、赤塚地区ということで、3地区になりますけれども、こちらの3地区で幼少中連携モデル事業というものを進めておりました。

こちらの3年間の研究の成果を踏まえまして、平成22年から、こちらに書いてあります23のエリアに分けて、中学校が板橋区では23校ありますので、その中学校1校に対して小学校が1から最大4校で、21番、22番には幼稚園が二つ、公立の幼稚園ということで、新河岸幼稚園と高島幼稚園ですけれども、こちらの幼稚園を含めた形でグループ分けをしまして、こちらで保幼小中連携教育を進めているということをして22年度から進めてきました。

こちらは、23年度から学びのエリアという考え方を付けまして、23年度以降、こちらの学びのエリアにおける小中連携教育ということで推進を図っているところでございます。

3行目のところに書いてあります「幼少中一貫指導計画」というものを平成22年3月に板橋区で作成いたしました。結構分厚い冊子ですけれども、こちらに、日常の保育や指導を通して接続を図れるように、各教科の領域ごとに、教科の目標などが掲載されているものでございます。

また、板橋区幼小中一貫環境教育カリキュラム、こちらは23年4月に作成したものでして、保幼小中の11年間にわたる環境教育ということで、こちらも学校に配布をしてございます。

また、キャリア教育についても板橋で力を入れておりまして、キャリア教育推進資料ということで、こちらは平成23年3月に作成したものでございますけれども、板橋区では、区内企業、大学と連携を進めてございますので、キャリア教育ということで力を入れて学んでいるところでございます。

こちらの学校を見ていただきますと、場所は通学区域図とあわせてご覧いただければと思いますが、23ありますけれども、全部の詳細はご説明できません

れども、例えば1番、「板橋区大山駅周辺いきいき学びのエリア」は、板橋第一中学校という、こちらは青い線が中学校、赤い線が小学校の通学区域になっております。

板橋第一中学校の、こちらの方にごさいますして（通学区域図を図示）、近隣の板橋第二小学校、板橋第六小学校、板橋第七小学校と三つの小学校と板橋第一中学校で、グループという形になります。

このようなグループ分けを23校で行ってございますして、こちらで小学校、中学校、もしくは保育園、幼稚園との連携を進めていくというのが板橋区の現状でございます。

こちらの学びのエリアで何をしているのかというお話ですけれども、学びのエリア別に保幼小中連携研修会というのを年2回実施してございます。

2回のうち第1回については、学びのエリアの中にある中学校が授業を公開して、いわゆる小学校の先生がその授業を参観し、第2回で、反対に小学校の授業を中学校の先生が、もしくは他の小学校の先生が見るといったようなことを行っております。

その授業を参観した後、小学校と中学校の先生同士が色々とテーマを決めて協議を行うということございます。

具体的には、授業参観ですとか、小学校、中学校教員によるティーム・ティーチング、小学生・中学生の合同授業、また、テーマを決めた研究協議などと例示をしておりますけれども、具体的に、例えば28年度の例でいいますと、板二中、板五小のエリアでは、ノートのとり方と指導法について、現状分析と、家庭学習習慣化などについて話し合ったりですとか、学びのエリアでテーマを決めて、小学校と中学校の中で話し合いをしています。

また、エリアによっては、小学校の生徒が実際に中学校の授業を見に行ったりとか、その逆という連携をしているところもあるということございます。

こちらは学びのエリアを生かした小中一貫教育の推進ということで、板橋区の強みとして、こちら学びのエリアを生かして、今後、板橋区では小中一貫教育を進めていこうというふうに考えているところございます。

説明は以上になります。

事務局 この学びのエリアの取組につきまして、中学校の委員から補足で、取組等で。

委員 学びのエリアで。

事務局 ご説明いただければと思います。

委員 今、活動内容とか研修内容のお話があったとおりで、かなり小学校、中学校で、子どもも中学校に来て授業を受けたりですとか、逆も色々やって、かなり進んでいるのかなとは思っています。

先ほども少しお話があったと思うんですが、この表の一つの中学校が統合にな

るんです、30年4月から。あと、ほかの中学校の学びのエリアの中の小学校も統合になるんです、4月から。

というところで、どうしてもこの学びのエリアを調整しなければならないということが起きてきますので、この2校が統合になるというところと、実情にあわせ、そういったことを整理し提案したい、そのような流れを大ざっぱに考えています。

その動きが始まりましたというところが今のところですか。以上です。

事務局

ありがとうございます。

今後の見通し以外にも、実態であるとか、日々、交流とかの中での感じている部分とかをご披露していただければよろしいでしょうか。

委員

先の見通しというのは、私は今、役員会に入っていないのでよく分かっていないんですけども、ただ、今のような動きをしているということはお聞きし、とてもいいことだなというふうに思っています。

要は、実態に合った学びのエリアの中で進めていくということは、とてもいいことかなと思っています。

ただ、小学校から子どもたちが中学校に行くときに、今年があっちが多い、今年があっちが多いというようなことが起こり得るものですから、今年はこうなんだけれども、来年はどうだというようなことの中で、微妙な動きはあるのかもしれないけれども、先ほど委員がおっしゃったような、何年か分のものを見ていけば、ある程度のことが見えてきて、実態に合ったものになるのかなと思っています。

それから、小学校は、中学校がまとめてくださっている中で、中を知り、小を知りということで、お互い、学び合っている時間というのはとても貴重で、本当はもう少し回数を多くやった方がいいのかなというのは思うんですけども、ただ、なかなか小中それぞれの時間を合わせてやるのは、回数を増やすというのは現状は難しい状況なのかもしれないなということはあると思います。

あと、学びのエリアを大事にするという意味で、管理職が必ず、多分どこでもやっていると思うんですけども、終わった後に会合したりします。参加したい者はどんどん広げてというようなことで、かなりの人数でそういう会をやるようになりまして、授業を見に行ったときも気楽に声をかけられるというような状況ができてきているというのが結構いいことなのかなと、そういうところから、まさに一貫で何か考えていくときの動きがしやすくなるのかなということを感じたりしながら、あるいは地域全体でこの学びのエリアを大事にするということは確認ができてきていることなのかなというふうに思っています。

以上です。

事務局

ありがとうございます。

いかがでしょうか。小学校との連携であるとか、今の委員からお話があったよ

うな交流であるとか、その辺で、またお話をいただければ。

委員 私は4月から異動したので、前任校のことだったら話せます。

事務局 お願いします。

委員 そこは小学校1校、中学校1校なので非常にやりやすいというのが、物すごくはっきりしています。

私も現任校へきて、小学校の校長先生が3人だということで、定例校長会ではいつも学びのエリアごとの校長の席になっているんです、この区は。

なので、学びのエリアの小学校長と私が同じ列で、いつも定例校長会のおときはいられるので、「先生、今度、こうだよね」、「ああだよね」と話したら、その場でも確かにできるんですけれども、1対1だと話が早いとすごく感じています。

去年までの(エリア内小学校長の)先生と私の間では、しょっちゅう、「来年はどうしたい」という話をまずお互いにしていて、こうしたい、ああしたいという話をお互いにして、それでそれぞれの学校でそれを広げてくれるというような状況が割と簡単にできました。

あと、もう一つは、(エリア内小学校)も研究校、うちも研究校だったので、お互いの研究授業のときに見に来るとか、研究発表会のときにしっかり全員が見に来るとか、そういうふうなことの交流もすごくやりやすかったのも、そういうふうな意味では、(エリア内小学校)の先生が結構変わったり、前任校の先生が結構変わったとしても、年に2回の研修会以外の顔合わせの機会があったので、先生方はすごくよく顔が分かっていたし、それから校長同士で時間があるときは、お互いの校内研究のときに行きました。行って様子を見てということをしています。

今年は、私の後任の校長先生がやってくださっているのは、中学校は少し時間的に余裕があるので、その先生が、一日中、小学校にびっちり張りついて授業の様子を見るというようなこともしています。

事務局 ありがとうございます。そういった学びのエリアを通じた動きというのがある中で、今日……。

(午後3時25分 遅参委員1名 入室)

委員 遅参して大変申し訳ございませんでした。

事務局 来ていただいたばかりで申し訳ありません。

今、ちょうど学びのエリアのご説明を皆様にさせていただきまして、委員の方から、現状、今後の展望をお話いただきまして、それぞれの今の現状をご披露

いただいたんですけども、お話ししていただいてもよろしいでしょうか。

前任校でも、あるいは前任校との差というか、何か違いというのが、もし。

委員

前任校でも同じ学びのエリアなので。

昨年度から、回数を重ねて、当日に会っていきなり何か話をするということではなくて、継続性が大事なのかなと。

学びのエリアで小学校、中学校が交代で授業をするんですけども、その授業に向けての話し合いを何かしていったらいいのではないのかなと。当日限りではなくて、そんなところから、連続性みたいなものをとったことで、昨年度は夏休みに一度会って、どんなふうに今後進めていこうかなという、まず、手探りなんですけれども、そんなところを始めたところです。

そんな中で、今の授業スタンダードに関わるような話もしながら、では、実際、小中で一貫性を持った授業規律をどういうふうにこれから進めていこうかなといったところも話したところです。

すみません、まとまらずに。

事務局

すみません、突然で。ありがとうございます。

そういった現状等がございまして、今日、せっかく地域の色々な方に来ていただいているので、そういった学びのエリアの動きであるとか、今後の小中一貫に結びつけていくと、こちらとしては思っているんですけども、何か、今までのお話で、ご意見、ご質問等がありましたら、何か、よろしいですか。

委員

そういう学びのエリアがあるというのも、子どもが大きくなってしまってますし、よく分かってなかったんですけども、でも、今、委員のお話しをお聞きしまして、とてもいいことだと思いました。

小中一貫校にしていくためには、そういうものを密度濃くしてやっていくしかないわけです。素晴らしい親交をされているなど感じました。

事務局

ありがとうございます。

委員

学びのエリアというのが、各地区であちこちあるんですけども、その学校がない地域というのがあるんですよ。今で言うと、出張所管轄ですか、そういう地域性みたいなものがあるんですよ。

そうすると、子どもたちを地域の人が見ていくということになると、そこに該当する中学校もないのに、これはどういう形にするか。そういう面を考えていただいて、それで、学校のこれから人数、適正配置、それから人数はこれから色々な形で調整するんでしょうけれども、まず、適正配置というのをよく考えていただいて、そのまま進んでいった方がいいのではないかなと思います。

とにかく、地域で子どもと一緒にそれをやるというのであれば、そういう方面で考えていただければいいと。

事務局 ありがとうございます。

委員 私は勉強が足りなくて申し訳ないんですけども、学びのエリアという言葉自体は耳にしていたんですが、内容を今、何十%か理解させていただいたような段階で、こちらは保護者の方の理解度というのは。私も、子どもが成人になってしまっていて、なので、保護者の方への連絡とか、そういうものは。

委員 実際に保護者会とかでは紹介している学校としていない学校がありますね。ただ、学びのエリアが終わったら、例えば学校だよりで、そのときの内容を掲載したり、写真を入れて出したりして報告みたいな形は、大体やっていますね。

委員 そうですか。では、言葉的には知っているけれども、それを見ているか見ていないかで、どういうことをやっているのかなというのは、そういうくらいに。

委員 はい。

事務局 よろしいでしょうか。

委員 僕は、（学びのエリアの）小学校が四つありまして、結構、親が最後に決めるときの一つの中で、クラブ活動で、クラブがこっちの方が先生がいいからこっちに行くという流れでいってしまうので、この四つの小学校は全部この周辺地区なので、クラブ活動で選ぶというものができてしまうと、そういうのはどうなのかなという気持ちはありますね。

 こっちの先生がいいかなって行って、でも、実際に行くと先生が変わっている、というようなこともあったという話なので。

 だから、そういうスポーツ関係で一貫校というのは、そのスポーツを目指している子は、そういう意味では、勉強だけではなくて、そういうのも区でやれば、また、いいのかなと思いますけれども、夢のような話です。

事務局 いかがですか先生方、そういったご意見ありますか。

委員 いや、そういう学校があったらおもしろいなと思いますけれども、部活で学校を選ぶという、私が副校長の時の中学校で、いつも2学級か3学級の瀬戸際で、どうやって子どもを集めるかとか一生懸命考えていたときがあるんです。

 一生懸命やりながらも、3学級になって喜んでいたりしたんですが、果たしてこの子たちは何を思って自分の学校を選んだのかなと調べたことがあるんですよ。

 「お兄ちゃん、お姉ちゃんがいた」とか、「もともとの学区域だから」、それが圧倒的に多かったです。部活で選ぶとか、学校の教育方針というとゼロに等しいです。なので、我々が思っている以上に、部活で絶対あの学校に行きたいというので選ぶ子というのは、そんなにいないのかなと思います。

でも、結構前の話なので分かりませんが、確かに部活だけの学校があってもおもしろいかなとは思っています。でも、これは板橋区の方針には逆行していると思います。

委員 私が元いた学校は、今いる中学校にどれだけ生徒を取られまいとするように頑張ったかという話をさせていただいていいでしょうか。

小さい学校なので、まずPTAさんが、「先生、いくらいい学校をつくったって、部活で向こうに行ってしまうんですよ」と言われてしまったことは確かにあります、私は。

なので、「部活ではなくて、もっといいことをやろう」と、一生懸命鼓舞して、私が使った手で一番いいのは、校長が、例えば私の場合は、本当は学区域としては小学校1校しかないんですけど、申し訳ありませんといって違う小学校へ行って、「すみません、保護者会ですよ」と言いながら、3分でも5分でもいいから自分の学校の宣伝に行きました。

でも、それをしても、簡単に言うと、「校長はいいことしか言わない」と、みんな思うではないですか、保護者からすると。

なので、私の次に使った手は、PTAに「いい学校だと言って」、「いい学校だと言って」と一生懸命言って、「あそこに行ったらこうだね」、「こうできる」、「あそこに行ったらこうできる」と言ってというふうに一生涯頼んで、それで、前任の中学校は2年生が2クラスなんですけれども、そのかわり、現任校は2年生が3クラスなんですけれども、というすごい状況になっているんですが、そういうのがないわけではないというふうに私は思っています、経験上は。

その辺は、そういうふうに言われてしまうなと思いますが、先ほど委員がおっしゃったみたいに、板橋区の教育方針としては学力ですので、違うかなという気はします。

委員 校舎がきれいな中学校と、長い歴史のある中学校とを比べると、ちょっといい(新しい)校舎の方に行ってしまうかな、と言っている話は、何人かに話を聞きました。

事務局 あと、PTAの方たちの学びのエリアに対する周知度というか、その辺というのはいかがでしょうか。

委員 大体は分かっている。PTAの方も分かっているのではないですか。
結局、分かっている人はいいんですけど、そこで活動していない人がいますね。
PTAにあまり来ていない人は、さっきのクラブだとか、校舎がきれいだとかで選んでいってしまうとかになってしまうことになるかなと。
PTAの活動をしている人は、ほとんど、そっちにはいかないという話は聞きますけれども。

事務局 学びのエリア内で小学校同士の何かで連携というのはあるのでしょうか、交流とか。

委員 連合行事をしたりしていますし、横のつながりは、とにかくいいですね、小学校は。

事務局 P T Aは。

委員 P T Aだったら、先ほどの地域センターを中心に、結構集まることあるんです。そこは地域センターになってしまうんですね。
そうすると、自分のところ（の小学校）は地域が外れてしまうんです。そこがまた、今度はこっちに戻そうかなと思って、そういう会があれば。そういう地域センターは青健のあれでエリアになってしまう。
それと、話が変わってしまうんですけども、成人式のときに、卒業校がこっちだからといって、青健だけが決まっていますので、学校別で成人式の場合はエリアじゃないんで、結構、成人式の日にかっち行ってあっち行ってって話を聞きます。

事務局 青健のお話が出ていますが、何かございますか。

委員 たしかにそれはありますよね。
だから、出席率が悪いというのは、友達同士で行ってしまうから、そうなんですけれどもね。色んな形で。
私は、ただ、現場で携わる先生にお聞きしたいんですけども、こういう小中一貫校ありきで、それで先生たちの交流とか、そういうのがスムーズにいけるかどうか、小学校と中学校とか。そういう体系とかの形では問題ないですか。これから、もし容認していく、小中一貫校運営していく場合において。
色んな報告を聞きますと、校長を一人、それから小学校の校長も置かなければだめ、それから学校名も、多分、変わるのかなのか。
そうすると、どういう形で、地域の人たちは学校に愛着があるから、学校名に愛着があるから、色んな形でそれを変えていくのは、相当な地域の人との話し合いが必要ではないかなということを考えるんです。

事務局 今、小中の、実際に学校のタイプとか、連携、一貫の話があったんですけども、資料の13ページをご覧くださいなのですが、こちらが小中一貫教育の制度の類型というのが載ってございまして、大きく義務教育学校というものと、あとは、小中一貫型小学校・中学校。Bの部分になりますね。
板橋区の場合、下の設置者というのが同一になりますので、AかBかというところがございます。
Aの場合、義務教育学校の場合ですと、校長先生は一人、組織も一つというところがあります。

一方で、小中一貫型小学校・中学校の場合は、それぞれに校長先生がいるという形になっております。

下に進んでいただきまして、細かいんですけども、「施設形態」という欄がありまして、それぞれで施設が一体であるか、隣接しているか、分離しているか、この3タイプが考えられます。

一番イメージしやすいというのは、多分、一体型なのかなと思うんですけども、一方で、区内全部でやろうとすると、どうしても分離型になってしまうのかなという部分があります。そうすると、先ほど委員からもお話ししていただいたとおり、交流であるとか、連携という部分が問題になってくる、課題になってくるのかなというところがございます。

その辺で、今の学びのエリアでの連携というか、教員同士の連携から、さらに小中一貫となった場合に、また難しさというか、どんなことが課題になってくるのでしょうか。実際に現場の先生からすると。

委員

現任校は2年目なので、まだまだこれからなんですけれども、前任校に5年いたので、そのときの話をすると、二つの小学校と一つの中学校だったんです。

そのときの思いが、小学校の先生からいうと「中学校に行っても同じだから」と小学校の子どもに言ってほしかったのと、中学校は「小学校でもやってきたよね。中学校も同じだよ」というふうに言いたかったんです。

ということは、勉強のカリキュラムは置いておいて、要するに、つまらないことかもしれないけれども、授業の始まりと終わりの挨拶はどうなってしまうのかというところで、中学校は、結構、挨拶に力を入れていたので、声に出して、「お願いします」、「ありがとうございました」と、すごく真面目にやるんです。

小学校はどうなっているのかなと思って見に行ったら、同じなんです。座ったままやるとか、「よろしくお願いします」と「よろしく」がつくか、どっちかなんです。なので、「これは一緒じゃん」という感じで思って、では、揃えていきましょうよと、そこから始めましょうというようなことはやってきました。要するに規律という面で。

規律とか、ルールとか、その辺をまず、できるだけ同じようにやって、中学校に行っても同じだからとか、小学校でもやってきたよねというのを、小中で合い言葉にしてやっていけば、子どももまごつかないで済むのかなというか、全然違う世界というふうに、中学校に来ても思わなくて済むのかなというところから始めました。

なので、現任校も、その辺で、この間、二つの小学校の校長先生とも話したのですが、そんなことも考えていきましょうというところで止まっていますけれども。

次は勉強の中身になってくるかな。色々と、揃えてできる場所は探していくと出てくる。子どもが困らないようにしてあげることを考えていけばいいのかなというふうには思っています。

事務局 よろしいでしょうか。

委員 この資料をざっと読ませていただいて、中一ギャップによって不登校とか、いじめがあると、中一ギャップというものも、私もよく携わっていなくて全然分かってなかったんですけれども、委員がいらっしゃったときはすごくいい学校になりまして、PTAの皆さんも本当に褒めていらっしゃいました。

本当に委員にずっといてほしかったということでしたけれども、すごくご努力されたのだと思います。

例えば、そういうふうに、今おっしゃっていた小学校から中学校にスムーズに移行していくということは本当に大事なことですから、一貫校ということで素晴らしい構想だと思いますし、地域でそれをどういうふうにバックアップしていくかということは、また考えていかなければいけないと思いますけれども。

事務局 ありがとうございます。

ここで、地域の方々ですと、小中一貫の教育に期待するところというのは、どんなところがおありでしょうか。あるいは、今よりどんなところがよくなるというような。

委員 私はあまりピンときていないのですが、私の意見ではないんですが、こういう話をいただいたときに、私の知り合いから、小中一貫だと、例えば小学校6年間やった後、卒業式、中学の入学式、そういう切れ目というか、しっかりとした、一度終了して、また始まるという、それがなくなると、子どもたちの情緒の面もどうなのかとかという、そういう質問。

情緒というか、言葉に表すのが難しいんですけれども、卒業式で、今まで6年間一緒であった子どもたちと別れるときの、人間としての気持ちもあると思うんですね。

卒業式で友達と別れるという、すごくいい面もある。この卒業式で一回別れて、また、別のところの中学の子どもたちと一緒にあって、また新たに始まるということもあるんだと思うんですけれども、そういう面での気持ち的な、精神面ではどうなのかなという話を知り合いから聞きました。

あと、私は個人的には、例えば変な考えかもしれないんですけれども、例えば小学校でいじめに遭っていた場合とか、例えば6年生、細かいことを言うと、例えば今いじめに遭っているけれども、6年間、この小学校を卒業すれば、中学に行けば、また変わるのではないかという、そういう本当に小さなこと、いじめは大きなことなんですけれども、細かいことなんですけれども、そういう問題もどうなのかなと、個人的には思っていました。

事務局 その辺の情緒的なお話とかなんですけれども、副会長、何かお話ししていただけますか。

副会長

今のお話で、子どもが、自分の毎日の日常の中で、ある程度区切りをつけてゴールインして、「よし、これからまたリスタート」というのは、とても大事なことだと思うんです。

だから、のんびんだらりと9年間だらだらといくのではなくて、そういう意味では、逆に言うと、小学校でも、1年1年、修了したら修了式というのがあって、「さあ、新しい学期が始まるよ」とか、「新しい学年が始まるよ」というふうな形で、子どもの中で、けじめをつけるとか、「では、6年生になったら、今度はこんなことをしよう」とか、それはあると思うのです。

だから、工夫次第によって、子どもの中に、いじめに区切りをつけて、新しいスタート意識を持たせるということは十分できると思います。

ただ、おっしゃるように、一貫になったときに、6年生のリーダーシップが、6年生は最高学年だから1年生のお手本になろうと頑張っていたのが、中学校に行くと、また（一から）というのがあって、そのリーダーシップをどういうふうに継続していくかというのが、本当に考えなければいけないねというのは課題としてはあろうかと思うんです。

ただ、委員がおっしゃったように、なだらかな発達の中でというか、一番下から、1年生からまた行くと、すごく中学3年間短いし、あつという間なんですね。

そうすると、それを少し、「小学校まで、ここまで来ているよ、もう」と。では、「ここから出発して、そして9年間でここまで行くんだから、ここから出発すればいいんだよ」というふうに言ってやることによって、子どもの中の圧迫感みたいなものは、ある意味で解消される、そのよさはあると思うんです。

だから、結果として、自分ってだめなやつだなとか、こんなにできないんだなというような、そんな気持ちではなくて、「ああ、そうか、そうやればいいんだ、先生、分かってくれているな」という形でのつながりをつくってやることによって、気持ちが安定してくる。

そのどちらのメリットをとるかみたいところは、それは考えなければいけないし、どちらかをとったときにデメリットになるのであるならば、それをどうやって克服していくかということを大人はみんな考えていかなければいけないのかなと、そんなふうには思うんですね。

委員

では、先生方の課題も大きいということなんですね。

副会長

そうですね。もう本当に学校は大変だと思いますよ、そういう意味では。

だから、ずっと交流してくださっているというのは、聞いていて、ありがたいと思うし、そういうご努力の結果、板橋の子がすくすくと育っているんだろうというふうに思いながら、今、お聞きしていましたけれども。

そんなことでいいかしら。

委員

ありがとうございます。

(午後3時48分 委員1名 退室)

事務局 ありがとうございます。

委員 私は個人的に、小学校の卒業式に行き、中学校の入学式に行きますと、何か違う子どもだったみたいに、同じ子がほんの1か月もないわけですよ、卒業から入学まで。見た感じが成長しているような感じがして。

私がよく思っていたのは、算数が数学になっていくとか、そういう切り替えていくのは本当に子どもにとっては大変なことだろうと思いますし、今は小学校でも英語教育などが入っていますけれども、以前は中学に行ったら英語があるとかという感じが、その辺が一貫教育になれば、なだらかに上手くスムーズに行くのではないかなと思っています。

事務局 私から少し補足させていただきます。

先ほどの13ページだと、義務教育学校と、それから小中一貫型小学校・中学校というふうに分けて書かれていたかと思うんですが、Bは小学校6年、中学校3年生となっておりますから、ここでは小学校の卒業式、入学式ということが必要であるならば、やることは全く問題ないと思っています。

それから、義務教育学校も、前期課程6年、後期課程3年とするならば、その子どもたちの生活に節目があった方が、さらに新たな目標を持って子どもたちが頑張るといった気持ちが醸成されるというふうに学校で考えるならば、それもそういった修了式なりなんなりという形のものを設定すればいいのかなというふうに思っているところです。

いずれにしても、どういう形態になっても、先ほどから出ている中学になったらとか、学年が一つ上がったらかようなものがあるんだというものを義務教育学校にしる、小中一貫型小学校にしる、そういったものをつくっていかないと、9年間同じ学校にいたら折れてしまうということは確かにあるのではないかなと思っています。

事務局 そのほか、ご意見はいかがでしょうか。

委員 だから、板橋の学校の、現在の建物自体が、施設一体校にするのか、それとも施設が離れるのか、それとも9年離れてやるのかという方向性にもっていかないと、それを決めないと、どういう形がいいか知らないけれども、ここはこういう学校、ここはどういう学校、施設間の距離が離れた、それと同じように、学校統廃合、小中一貫校とするかという形の問題も出てくると思うんですけれども。

施設一貫校、同じ形で一つの学校をつくったら、今の古い学校を建てかえて、それをつくってやるような形にするのがいいのか、どうなのか。

結局、小学校と、今まで中学校との運動場のスペースというのは大分違ってく

るでしょう。そうすると、小学校1年生から中学校3年生ぐらいの9年間、8年間かのバランスがあったら、その中で色んな形ができるのかどうかというのを、それを考えていかないと、なかなか上手くいかないのではないかと。

事務局 おっしゃった施設の面というのが、今はソフトの内容が主で、この後、研究課題としてのぼってくるのかなというところがございます、小中一貫を同じ建物でやるとなると、かなり大規模な校地が必要になってくるということもございます。

当然、板橋の学校は、それほど大きなところが実態としてはありませんので、すぐ建てるかということ、また、それはなかなか難しい部分もあろうかなと。

委員 一般的なあれでいうと、新しく建てた方が金銭的に安いとか言っているような感じもあるんですけども、私も新しくつくった方がいい。

それは分からないけれども、区の別のほうなので違うでしょうけれども。どうなのか、そこのところを。

事務局 一方で、学校の老朽化については、魅力ある学校づくりプランというところで対応しております、今は、昭和30年代に建てた古い建物というのがまだありますので、古いものから順次、建てかえている状況ではございます。

その中で、例えば広さであるとか、条件であるというのが合ってくれば、上手くタイミングとしてやれるかなという手もあるかとは思っています。

委員 普通に考えるのは、施設一体型でやるのが一番ベターではないかと思う。そこは思っただけですが。

あとは規模ですね。どのぐらいの規模でやるか。

なぜかという、うちの、地域センターだと子どもたちがいないんですね。だから、何か行事をするにしても、あちこちの地域センターから集めてやるような形になる。

それだったら、同じところで、規模を同じような形にして、全部同じような形でする方がいいのではないかなという考えは持っている。

事務局 おっしゃるように、学校の規模であったり、適正の配置、通学区域の真ん中に学校がどこもあればいいんですけども、なかなかそういう状況がないという実態がございます、一方では、通学区域が、町会だったり青健の活動のエリアと必ずしも一致していない、むしろしていないエリアの方がすごい多い状況でございますので、その辺というの、今後、検討していく課題なのかなと。

あとは、先ほど委員からも今後の見直しの話がありました学びのエリアというところも、実際に進学する数が違う中での組み合わせであるとか、あとは、通学区域という観点も出てくるのかなと、そういった一体的に検討していく課題ではあるのかなというふうに、事務局も認識しております。

委員 　　ただ、学校をつくるには、地域の（協力）が必要ではないかと思う。

事務局 　　ほかに、いかがでしょうか。

委員 　　今、板橋区のジュニアリーダーの育成に携わらせていただいているのですけれども、城西ブロックというブロックがありまして、3地区で、前までは5地区あったんですが、その二つはジュニアリーダーというものがなくなりまして、今、3地区で城西ブロックという活動をしております。

　　そのブロックの中で、私が一番思うには、多分、一番、板橋地区のジュニアリーダーの活動が活発なのではないかと自負しているのですが、そういう立場から言わせていただくと、板橋区のジュニアリーダーの会則の中で、ジュニアリーダーの立場というのが小学校4年生から高校3年生までになっております。

　　その中で、そういうあれから言えば、一貫型というのが、小学校4年生、小学校と中学校が一緒になることによって、そういうジュニアリーダーに入っている子どもたちの活動、あるいは、これから、そういうのに入りたいなという子どもたちにとって、いいメリットにもなるのではないかと、立場的に一つ言わせていただきました。

　　できましたら、そういうことも含めて、やっていただけると本当に私たちもやりがいがあるので、宜しくお願いします。

事務局 　　当然、ジュニアリーダーの方も、地域の活動、特に青健活動で重要な位置を担っていただいていると思いますので。

委員 　　自負している。特に板橋は、今18地区で、どちらの地区もかなり人数も増えていまして、活動に携わらせていただいておりますので、これを機会に、例えば学校の中でも、そういった子どもたち同士の話もできるようになれば、一つのメリットにもなるのかなと思っています。

事務局 　　そのほか、いかがでしょうか。

委員 　　あと、今、あいキッズというのは随分充実してきていますけれども、私は行ったことがないので中身がどういう状態か分かっていないのですけれども、一貫校にしていくと、昔は、私たちが子どものころは、大きいお兄ちゃん、お姉ちゃんと取っ組み合いをして遊んだけれども、今は本当にないですよね。

　　同学年か、パソコンをしているのかゲームをしているのか分からないけれども、外で遊ぶ姿もあまり見かけない。

　　だから、一貫校にして、高学年、または低学年をお互いに思いやっけていけるような、そういう道徳的な部分も養われていくんではないかなと思います。

　　先生方が一番大変かと思います、一貫校にしたら。

事務局

あいキッズのご意見がありますが、委員、何か、いかがでしょうか。

委員

あいキッズは今、放課後、どなたでも登録すればずっと残っていられる。

学童保育というところで、ご両親が就労されているとか、そういうお子様にについては少し長くお預かりしているというところがあるのですけれども、今は1年生から6年生までがあいキッズに入れますので、そういった意味では、昔だと学童は3年生までだったのですけれども、今は、そういう意味では1年生から6年生まで交流ができていくということがございます。

今、色々と、ハード面とか、そういうお話もあったかと思うんですけれども、中高（＝小中）一貫で、建物が一体化した場合に、校庭も1か所になってしまうので、そうすると、子どもたちが放課後に遊ぶ場所としての校庭と、一方で、中学生に当たる年代になると部活があるんですね。

そういうところをどういうふうに安全に確保していくかとか、そういう新たな課題もある。また、年齢が続くということでの交流とか、そういった色々な要素があるかなと感じています。

事務局

ありがとうございます。そのほか、よろしいでしょうか。

そうしましたら、今日、机上でお配りした1枚のこの資料をご覧いただきたいんですけれども、学びのエリアの取組を通した小中連携の推進と、丸いポンチ絵が描いてあるものでございます。

冒頭からお話ししておりますのが、板橋区の学びのエリアの取組を、不登校であったり、中一ギャップ、そういった社会的な要請等もありまして、小中一貫教育を発展させていくということで、今回、この検討会を開催させていただいております。

その際には、まずソフト面での検討というところが必要と考えておりまして、義務教育の9年間を通したカリキュラムと指導計画の構築というところを、今、教育支援センターでやっていただいているところでございます。

一方で、その際に、課題というところで、今後、先ほどいただいた意見等も踏まえつつ、課題として例示として挙げさせていただいているところでは、目指す子ども像の共有から、学年の区分け、教員の配置とかというところがございます。

目指す子ども像につきましては、板橋区の教育ビジョンというものがございまして、それで大括りで謳っている部分がございます。

それというのを、今後、学びのエリアごとに設定していくのか、あるいは地域連携というところでは、地域で育てていただくという部分もございまして、今後、コミュニティ・スクールを、今、検討してございます、地域の方に入ってきていただきまして、学校運営に携わっていただく、そういうことと小中の連携、小中一貫教育をどう結びつけていくのかというところがございます。

先ほどお話しさせていただきました通学区域、こちらについても見直す必要が出てくるのではないかと。

学びのエリアにつきましても、より多くの子が通っている中学校との結びつき、

それが年度、年によって変わるというお話もありますが、ならしていけばどんなものかというのは、今、委員で色々と検討いただいているというところがございます。

また、一方で、建物に関しましては、一体型を建設してしまった方がいいのではないかというご意見もいただきました。一方で、全部ができるわけではございませんので、既存の施設を利用して、どんな手法が考えられるかといったものなどが今後検討していただく課題になってくるのかなと考えております。

その中で、ハード、建物の検討というところで、どんな形がいいのか、時期的に、いつやった方がいいのかというところが話として出てくるのかなと考えております。

最終的には、板橋区で小中一貫教育を行うに当たって、どのような形が一番望ましいか、そういったものを最終的な検討の答えとして導き出していきたいというふうに考えてございます。

最終的には、学びのエリアを基本としつつも、立地の条件、敷地の条件、また、進学状況等によって、小中一貫校、タイプは色々ございますが、そういったものを視野に入れて、あと、あるいは小中一貫校を核とした学びのエリアというものの発展、進展というのを図っていきたいというふうに考えてございます。

そうした色々な要素が絡み合っておりますので、今回、お越しの皆さんに色々な様々な視点でご検討いただいて、今現在、板橋区の強み、これを生かした小中一貫教育について、まとめというのを今後導き出していただきたいと考えてございます。

ここまで、今後の流れというか、検討の大まかな考え方をお話しさせていただいたのですが、何かご意見等ございますでしょうか。

委員 今おっしゃっていた板橋の強みというのは、具体的にどんな。

事務局 まずは、今現在、行っている学びのエリアという、先ほど来お話しさせていただいた仕組みがございますので、それを発展させて、あとは改善するところは改善する、発展するところはより発展させて、小中一貫という形に結びつけていきたいと考えております。

一方で、小学校と中学校の、それぞれの先生方や、実際に教える教員の方の意識というか、課題というか、何かございましたらご披露いただきたいんですけども、よろしいでしょうか。

委員 先ほども、話し合いをということなんですけれども、年々、中にはうちの教員が、T2（ティーム・ティーチングにおける2人目の教員）まではいかないんですけれども、中学校で授業をするときは、中に入って指導するとどうなんだろうという、指導者側の立場で中学校の子どもたちを見ていくみたいなのところもあり、そういうことで、小学校の先生が中学校に行ったりとか、中学校の先生が小学校に来たり、子どもたちと関わるということについては、大なり小なり温度差は多

少あるかもしれないんだけど、先生たちの意識からすると、何で小学校の先生が来たの、と中学校の先生が思うこともなくなっているのだろうし、その逆もあるのかなと。

逆に、お互いにいいところはどんどん来てもらえるといいな、小学校でいうと、これから英語なんかはどんどん来てもらいたいし、また、あと連合陸上記録会が2年に一回あるんですが、そんなときに、中学校の先生だけではなくて、陸上部の子どもを使いたいというようなことも、色々な学校で、全部の学校でやっているわけではないですけれども、お互いに学校支援地域本部の立ち上げで色々な人が入ってくるということに対しても抵抗感が、板橋区はなくなっている。

そういう面で、そういう、よりよい人に学校に来ていただいて、子どもたちのためにという視点で考えれば、そういう抵抗感というものはないので、それを整理して行って、課題は当然あるので、そこを上手くクリアするような、見える化を図っていけば、上手い方向に進むのではないかなと思います。

事務局 ありがとうございます。

委員 先生同士も、小学校、中学校に慣れてきているかなと。構えることはないでしょう、多分。急に何かお願いされても、対応できることは対応していくというような感じの準備はできていますね。

例えば、この間も、中学3年生の英語で、6年生が一緒になって中学校で勉強したんですよ。急に言われたんですけども、いいですよというような感じで。

広い部屋があったので、そういうこともできるという関係になってきているのかなとは思っています。

事務局 ありがとうございます。

副会長 今のお話ですけれども、小学校が中学校に来て「やって、やって」みたいで、中学校は負担が大きくなるのではないかなというふうな懸念がきっとあるかと思うんですけども、でも、学力の板橋で頑張っていらっしゃるんですけども、一番効果がある学び方は、人に教えることなんですよ。

教えてもらうばかり、聞いているばかりで、どれぐらい身につくかというのと比べると、桁違いに人に教えた方が身につくんですよ。

だから、小学校は「お願い、お願い」と言っているけれども、ある意味では、中学校も小学校の子どもに算数、数学を教えろとか、英語を教えろとかすると、自分の中の学びがもう一回よみがえってきたり、整理がついたりして、そういう意味では、いい関係ができて、いい循環になると、板橋の強みではないかなと思いつつ、今、お伺いしていたんですよ。

学びのエリアが本当に生きて働いていると、確かに、これからどんな方向に行くにしろ、とても大事な連携ができてきているのかなと思いつつ伺っていました。

事務局

ありがとうございます。

そのほかはいかがでしょうか。

それでは、大分、色んな貴重なご意見をいただきまして、今後の検討の課題として、また整理させていただいて、また皆様ご検討いただきたいと考えてございます。

今日の色んな議論を総括しまして、会長、副会長から、最後にご意見をいただきたいと思えます。

副会長

私は、先ほど、それこそ申し上げたところのまとめですけれども、連携するということは、これは学校同士だけではなくて、教員同士だけではなくて、私たちも同じだと思えますね。

色んな考えを持っている、色んな力を持っている、色んな要素を持っている人が、こうやって集まって、色々話すことによって、何かしら新しいものが生まれってくる、これからの時代はそういう形が一番大事だというふうに言われていますよね。

仲間同士で集まって何かをするだけではなくて、おっしゃってくださったように、ここは知らなかったけどというのがすごく大事なお声だろうと思えますね。

そういう中で、何かしらの会話が起って、新しいものが板橋に生まれればいいなというふうに思いながら、とても頼もしく、また、意味のある時間を過ごさせていただいたと思えます。

これからどうぞよろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございます。

会 長

それぞれの委員の方のご発言を興味深く聞かせていただきました。

それを踏まえて、二、三、申し上げさせてもらいたいと思えます。

まず、一つは、学びのエリアという、このキャッチフレーズというか、コンセプトというのでしょうか、これはこれとして生かすにして、どういうふうにしたらいいかどうか、サブタイトルにするのか、あるいは一文にするのか検討いただきたいと思えますけれども、幼少中、あるいは小中で学びをつなぐという、小中というのを出す、幼少中というのを出す。

要するに、学びはこれまでどちらかという学校を卒業することで、断絶するとか、あるいは段差があるとか、あるいはまた、そこに飛躍があるから人間はそういうところをよじ登ることによって成長するんだという、確かにそういう側面もある。

先ほどの卒業式云々というのもその一つとして捉えることができる。昨日まであんなに幼い子が、とても成長した、それが小6と中1という先ほどのお話にとっても、たしかにあると思う。

ですから、人間の成長は、なだらかに上昇するというよりも、それこそ、あるときに飛躍的に成長して、しばらく停滞したり、あるいは場合によっては後

退するという、そういうこともあって、でも、何かのときに飛躍するというふうな、そういうふうな成長の仕方も様々にあるわけで。

ですから、色んな成長の仕方を、それぞれの子どもが自分に応じて成長していくという、そういうことを考えるのであって、それを9年間という中で、そういう意味で、ときには飛躍があったり、ときにはなだらかな横線があったりしながら、9年間という時間の中で、みずからの成長を達していくんだと。

そのときの一つのコンセプトとして、これまでの学校段階で切れてしまうのではなくて、学びをつないでいくという、その「つなぐ」というところに一つのポイントを置いて、それが、学びのエリアの中で行われている諸々のことが、そういう意味では幼少中で学びをつないでいこうという、そういうことなんですけれども、そのつなぐ中身は何なのかというのは、また、それぞれ詰めていただければと思うわけですけれども。

そういう点では、むしろ機械的に6年と3年ではなくて、もっと丁寧に9年間の1年1年の積み重ねとか、関連というのをもっと丁寧に見ていく必要があるんじゃないか。

例えばこういうことも言えると思うんですけれども、6年生がいることで、実は4年生はもっと成長しているはずなのに、頭が重い学年が二つあるから4年生が今の状況にある。これは小学校です。こういう言い方もできなくはないわけです。

5、6年生がいなくなった4年生ってかなりやるんですよ、というふうな、そういう姿もまたあるわけなんですけれども、ご承知のように、長年6・3でやってきましたので、ご承知のようなそういう姿があるわけなんですけれども、実は4年生も相応にかなりのことをやれるものを本来的には持っていて、事実、そういう姿が色々あるわけです。

ですから、そういう面では、改めて、それぞれの学年、学年、一つ一つの学年の積み重ねをつないでいく、あるいは成長を重ねていくというふうな、そういう姿というのが大切になってくるのかなというふうに思います。

そういう点で、学びのエリアの中で一体何が交流されているのか。

今、伺いますと、大分、そういう意味でいうと、先生方の関係というのが、従来のように、小学校と中学校で非常に断絶しているような関係では随分なくなってきているのかなというふうな、そういうことは、ある意味で大変、学びのエリアが培ってきた、築いてきた、一つの財産ではないかなというふうに思います。

そういう点で、さらに小中の先生がお互いの学びをつないでいくということで、色んな情報交換とか、色んな取組をされたんじゃないかと思うんですけれども、さしずめこの夏休みに、小中の先生で、そういう研修とか、そういうご計画がある学校、エリアは、ぜひお願いしたいのは、新しい学習指導要領を小中の先生で読み合わせていただくというふうな、そういうことをその中に組み込んでいただけるとよろしいのかなと。

それが、9年間の教育課程の、これから検討していく布石になっていくはずではないかというふうに思いますし、多くの小中の現状の学校は、それさえできな

いで、恐らくこの夏を過ごすのが大勢ではないか。

やるとすると、小学校は小学校、中学校は中学校でやれるところはやるかもしれないという、そういうことですので、9年間を学習指導要領を読むというような、そういうことをされて取組まれたらよろしいのではないかなど。できるところは。

最後になりますけれども、改めて、そうしたときに学区というのをどういうふうに考えられているのかどうか。

それこそ、明治以来、学区といえば、まず小学校を核にして、地域の周りというのを学区と通常は言っていて、中学校を核にした、それを中学校区というのは人工的につくられたものというのでしょうか、そういう意味合いが多分にあるということ。ですから、とはいうものの、今回、この取組は、ある意味でいうと、中学校区を実質化していくという、そういう含みがこの中にも入っているのではないか。

中学校区でまとまっていこうという、そういう話になるわけで、そうしたときに、とはいうものの、長年、小学校を単位に築いてきたこの学区というのは、なかなか、そういう意味でいうと、「はい、明日から」というわけにはいかない。そういう地域の方の心のあり方というのも色々あるわけで、それはゆっくりと時間をかけながら、中学校区というところに目を向けていただくということだと思うのですが、その間、行政のお立場からすると、中学校区と小学校区の歴史的な経過も含めて、かなり複雑な関係、状態になっているところを、ある意味で、どう紐解いていくのか、あるいは複雑なら複雑なりに、どういうふうにそれを、今日のこういう文脈の中に位置づけていくのかどうか、それをご検討いただく必要が非常にあるのではないかというふうに思います。

ですから、実質的な小学校区から、そこから中学校区にスムーズに移るという非常に複雑な経過の中で、小学校や中学校に移っている。

それこそ、そこには、ある意味で、断絶あるというのが実態だというふうに思うのですが、学びをつなげていくことが子どもたちの成長に、非常にプラスになってくるのではないか。

だから、そういう観点からしたときに、そのフィールドの整え方というのも、この取組をしているときの条件整備の一つとして、これは極めて大切な部分だというふうに思いますので、それについてのことも、まなざしを注ぎながら進めていくという、やり方としては。

いずれにしましても、学びのエリアというのを一つのポイントにして、また、キーワードとして、あるいはそれを実質化していくという、そこで、どれほどのことまで行けるかどうかということ、私どもで知恵を出しながら、より一層いい姿を目指していければということで、そのことは板橋区なりの小中一貫という、そういう姿を提示することが十分できるのではないかというふうに思いますし、実質、そういう積み重ねの仕方というのものもあるのではないかというふうに思いますので、皆さんの知恵を糾合していく、そんな取組になっていくといいかなと思います。

以上です。

事務局

ありがとうございます。

今、会長、副会長の先生お二人からご意見をいただきましたが、何かご質問とかはございますか。なかなかご質問する機会がないかと思うので、この際、何かもしあれば。

よろしいでしょうか。

(なし)

事務局

では、お二人の先生からいただきました今後の方向性であるとか、論点、あとは、先ほど来の議論の中でいただいた皆さんの疑問点であるとか、課題というのを、今後、整理して検討していきたいと考えてございます。

今後の検討体制と進行の予定につきましてご説明させていただきたいと思います。資料では、23ページに検討体制を載せてございます。

この中で、左上の一番大きな、大きなといっても2番目ですかね、上にある検討会、こちらが今行っている小中一貫教育に関する検討会でございます。

そのほかに、先ほどご紹介した教育支援センターが所管しておりますカリキュラム面を検討している小中一貫教育推進委員会がございます。

一方で、この検討会の下部組織として、作業部会として、小中一貫教育に関する検討会作業部会がございます。

あわせて、地域教育力推進課というところが所管しておりますコミュニティ・スクールについて検討している所管がございまして、こういった各検討会と連絡調整しながら、最終的に結論を出していきたいと考えてございます。

続いて、24ページをご覧くださいと思います。

こちらにつきましては、最終的に報告書というものを作成していくに当たって、現段階、粗々で事務局で考えた報告書の骨子の案でございまして、今日いただいたお話であるとか、今後の議論の進み方によっては、内容というのは当然変わってくるかと思いますが、まず第一としては、板橋が進める小中一貫教育というところがございまして、ソフト面、ハード面、それぞれ考え方というものがあり、そのためにはどんな課題があって、それをどう解決していくかというところを示していければと考えてございます。

今後の日程につきまして、最終ページ、26ページをご覧くださいと思います。

本日、7月19日に第1回の検討会を行いました。その後の作業部会につきまして、7月下旬から8月に、それぞれ行ってまいります。主に作業部会2回につきまして検討会を1回行い、報告、また課題というのをいただいて、そちらについて検討していくという流れを想定してございます。

検討会の第5回、年内ですね、こちらにつきまして、中間のまとめというものを作成していきたいと考えてございます。

このまとめにつきましては、教育委員会であるとか、定例的に行っている校長会、あとは庁内的な会議、庁議でございますとか、あとは議会の委員会に報告して、様々に、さらにご意見をいただいきたいと考えてございます。

その後にパブリックコメントで、区民の方に広く周知してご意見をいただくという手続、段取りがございますので、そちらを行った後に、3月ぐらいにはその意見を反映させた上で最終的な報告書を作成していきたいと考えてございます。

作業部会のところで予定を書いているんですけども、あくまで現時点の予定でございますので、本日の議論からすると、ソフト面であったり、そちらが先なのかなというところもございますので、そちらについてはまた調整させていただきたいと思っております。

今後の検討の進め方、あと日程につきましては以上でございますが、全体を通して、何かご意見、ご質問等ございましたら、いかがでしょうか。

(なし)

あとは日程調整につきましては、ご面倒をおかけするんですけども、後日、担当からご連絡させていただき、調整させていただきたいと考えてございます。

これで、ご質問がないようでしたら、第1回の検討会は終了したいと思います。最後に、教育委員会事務局次長から、一言、ご挨拶をお願いできればと思っております。

次 長

昨年度は、教育委員会事務局の中で、勉強会的にこういった小中一貫教育のことについて取り組んでいたんですけども、今年度から外部の先生方、それから地域の方々にも入っていただいて、より議論を深めていこうといった次第でございます。

今日は第1回目で、最初の会議でございましたけれども、今後もぜひご協力いただきまして、実り多い会にしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。

事務局

では、以上で、本日の検討会を終了させていただきます。
お忙しい中、ありがとうございました。

・午後4時26分 閉会